
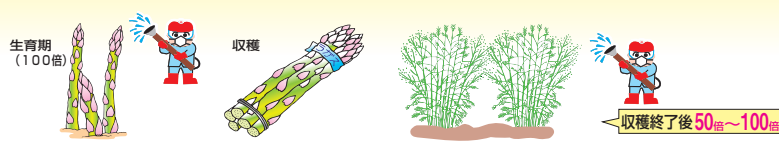





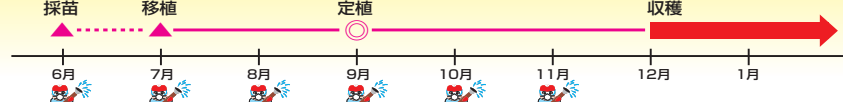





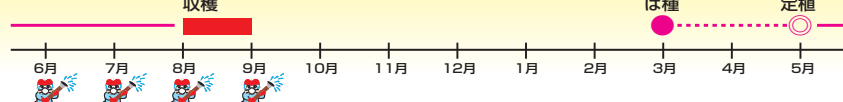

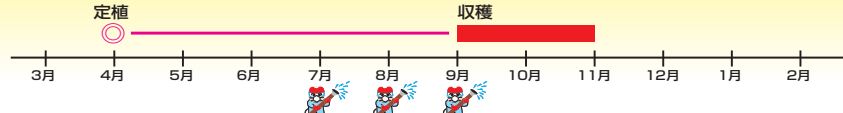



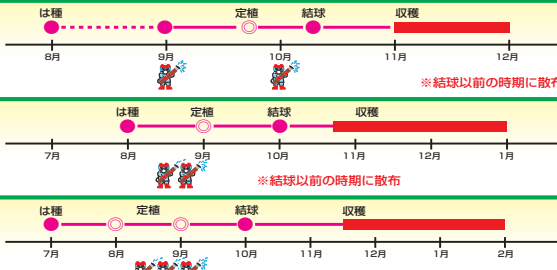


ICボルドー 660

1. 取扱簡単、水で薄めるだけで即OK。
2. 高品質微粒子設計でムダなく、ムラなく、目詰りなし。
3. 付着力抜群、薬効の持続性が長い。

散布例 (散布適期)

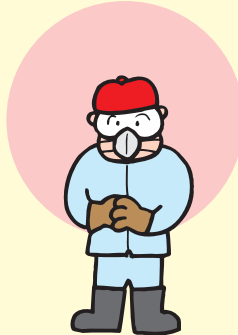
 <p>アスパラガス</p> <p>萎枯病 100倍 (生育期~収穫終了後) 50倍 (収穫終了後)</p> <p>NEW 斑点病 50倍 (収穫終了後)</p>	<p>生育期 (100倍) 収穫</p>  <p>収穫終了後 50倍~100倍</p>
 <p>トマト ミニトマト</p> <p>疫病 50倍</p>	<p>過繁茂抑制</p> 
 <p>にんにく</p> <p>春腐病 50倍 白斑葉枯病</p>	<p>東日本 4月 5月 6月 西日本 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月</p> <p>発病に応じて適宜散布</p> 
 <p>いちご</p> <p>炭疽病 100倍</p>	<p>採苗 移植 定植 収穫</p> 
 <p>にんじん</p> <p>黒葉枯病 50~100倍</p>	<p>冬どり</p> <p>は種 収穫</p> 
 <p>薬用にんじん</p> <p>斑点病 50倍</p>	<p>定植</p> 
 <p>すいか</p> <p>炭疽病 50倍 つる枯病</p>	<p>収穫</p> <p>は種 定植</p> 
 <p>しょうが</p> <p>白星病 50~100倍</p>	<p>定植 収穫</p> 
<p>野菜類</p> <p>軟腐病 100倍</p>	<p>使用例  秋どり レタス</p> <p>使用例  冬どり はくさい</p> <p>使用例  冬どり キャベツ</p>  <p>*結球以前の時期に散布</p>

地域により又、気象条件等により散布時期は相違しますので、詳細は最寄のJA等関係指導機関にお尋ね下さい。

■ ICゴルド-の希釈方法

ICゴルド-は粘度のある懸濁液ですので、まず箱からフィルム袋を取り出し、繰り返しよくもみほぐしてください。

① 保護眼鏡、ゴム手袋
防除衣、ゴム長靴を
着用。



② 凹凸のない平らな所で
ICゴルド-袋の中心
部にこぶしを押し込む
ようにしてよくもみほ
ぐす。



③ 水を八分目入れた
SSにICゴルド-
を入れる。



④ 固まりがこし網に
ある場合、残りの
水量の水圧で
流し込む。



③ ポリバケツに
倍量の水を入
れて、
ICゴルド-
を加えてよく
かき混ぜる。



④ タンクに混
合液を入れ、
よくかきま
ぜる。



■ 適用病害虫の範囲及び使用方法(塩基性硫酸銅28.1%、普通物、B類)

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	銅を含む 農薬の総 使用回数
アスパラガス	斑点病	50倍	100~300ℓ /10a	収穫 終了後	—	散布	—
	茎枯病	100倍					
トマト	疫病	50倍					
ミニトマト	炭疽病	100倍					

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	銅を含む 農薬の総 使用回数
にんにく	春腐病	50倍	100~300ℓ /10a	—	—	散布	—
	白斑葉枯病						
にんじん	黒葉枯病	50~100倍					
	葉用いんじん	斑点病					
すいか	炭疽病	50倍					
	つる枯病						
しょうが	白星病	50~100倍					
野菜類	軟腐病	100倍					

効果、薬害など使用上の注意事項

- 石灰硫黄合剤、有機リン剤、マシン油乳剤等を混用すると薬効を減じ、また薬害を起こす原因となるので混用しないこと。
- 散布直後に降雨があると薬害が発生しやすいので注意すること。
- 高温時の散布では、葉及び新梢にボルドー液特有の銅による薬害が発生する場合がありますので注意すること。
- 核果類(もも、うめ、あんず)には薬害を生じるおそれがあるので、生育期にはかからないように注意すること。
- ぶどうの無袋栽培で使用する場合、果房に汚れが生じるおそれがあるので果実肥大期以降の散布はさけること。
- おとうに使用する場合、北光には薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- また、果実に汚れを生じるので収穫間際の散布はさけること。
- かんきつに使用する場合に次の事項に注意すること。
 - 新梢伸長期には石灰による葉焼けを生じる場合があるので、新梢伸長期にはパラフィン系着剤を添加すること。
 - 梅雨明け以降の夏季高温時の散布は、薬害(スターメラノーズ)を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - 樹勢の弱い樹や異常低温が予想される場合は、落葉を助長するおそれがあるので使用しないこと。
 - 幹腐病防除に高濃度(2倍)で使用する場合、枝幹の病斑部に処理をすることとし、葉や果実に薬液がかからないように注意すること。
 - 無人航空機による散布では、新梢伸長期には石灰による葉焼けを生じる場合があるので散布をさけること。
- トマトに使用する場合、果実に汚れが生じるおそれがあるので注意すること。
- びわに使用する場合、幼果期以降収穫までは薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- ゆりに使用の場合は、次の事項に注意すること。
 - 切り花用のゆりには汚れを生じるので、注意すること。
 - オリエンタル系のゆりには、薬害を生じることがあるので使用しないこと。
- アスパラガスに使用する場合、高濃度(50倍)散布では、茎に汚れを生じるおそれがあるので、収穫終了後の散布とすること。
- もものせん孔細菌病防除に使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、開花後から8月末までは使用しないこと。
- レタス及びはくさいに使用する場合、生育後半の散布及び連用によって薬害を生じる場合がありますので注意すること。
- キャベツに使用する場合、結球期以降の散布では汚れを生じる場合がありますので注意すること。
- キウイフルーツに使用する場合、発芽後の散布は薬害を生じるおそれがあるので、使用時期を厳守すること。
- いちじくに使用する場合、新根に薬害が発生するおそれがあるので定植1年目までの苗木には使用をさけること。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において、事前に薬害や作物への汚れの有無を十分確認してから使用すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。

近接散布

農業散布の前後関係による散布間隔を厳守して下さい。

ICゴルド- → 石灰硫黄合剤 2週間

ICゴルド- ← 石灰硫黄合剤 10日間

ICゴルド- ↔ マシン油乳剤 2週間

安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗いし、眼科医の手当を受けること。使用後は洗顔すること。
- 本剤は皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- 使用の際は保護眼鏡、不浸透性手袋、不浸透性防除衣、ゴム長靴などを着用すること。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物への注意

- 水産動植物(魚類、甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- 無人航空機による散布で使用の場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- 使用残りの薬液が生じないよう調製を行い、使い切る。散布器具及び容器の洗浄は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

貯蔵上の注意事項

乾燥固結しないように密封して貯蔵すること。また凍結するとその物理的性状が劣化するので凍結には十分注意して保管すること。

●ラベルをよく読む。 ●登録作物以外には使用しない。 ●小児の手の届く所には置かない。

INOUE
CALCIUM CORPORATION

水で溶かすだけで
今日から
すぐ散布できる!
楽々!
安くて簡単
効き目も強い!

ICゴルド-



井上石灰工業株式会社

〒783-0060 高知県南国市壺が丘2丁目3番地5 TEL.088-855-9965 FAX.088-880-8808
http://www.inoue-calcium.co.jp